



福島原発
事故から10年
【3回連載③】

パルシステムが進めてきた放射能対策 組合員の声にこたえて。

福島第一原発の事故以来、パルシステムは国より厳しい自主基準を定めて、お届けする食品(※)の放射能検査を行っています。
自主基準の見直しも進め、食の安全を求める組合員の声にこたえてきました。この10年間の検査体制について振り返ります。

(※) 東日本を産地とする農産物、日本沿岸・近海・北太平洋の一部の水産品、国内の淡水産水産物、また、それらを使った加工品。

厳しい自主基準と検出下限値で守る信頼

パルシステムではまず2011年9月に、食品中の放射性物質の自主基準を設定しました。当初は外部に検査を委託していましたが、検査体制を強化するため内部に放射能検査室をつくり、ゲルマニウム半導体検出器を導入。2012年1月に内部検査を開始しました。同年4月には2台目のゲルマニウム半導体検出器も稼働(パルシステム東京が購入)。民間や行政では短時間で検査ができる簡易測定器を使うところもありますが、ゲルマニウム半導体検出器であれば測定時間はかかるものの、放射性ヨウ素やセシウムを低濃度まで測定することが可能です。当時は、公表した場合の反応や影響を懸念しながらも、どんなに高い数値が出ても公表してきました。

さらに、2012年と2014年には自主基準の見直しを行いました。とくに2016年には乳幼児食品の検出下限値を1Bq/kgにまで下げています(※)。商品検査センター放射能検査室の宮本憲枝職員は、「自主基準や検出下限値の見直しは、安全な食を求める組合員の要望を受けて実現したことです。行政の検査では検出下限値を25Bq/kgに設定しているところも多くあり、それ以下のものは不検出と報告されます。パルシステムでは精度の高い検査に努めています」と話します。

検出下限値を下げるほど測定時間が必要になり、ときには一品目に12時間かかることもあります。正確さを心がけた検査を行っています。「時間がたち、放射性物質が不検出になることがほとんどですが、厳しい検査を続けて、組合員に安心して選んでほしいと思っています」(宮本職員)

※検出下限値とはその検査で検出できる最低値のこと。パルシステムでは、一般食品も検出下限値3Bq/kgと低く設定しています。

精密に測定するため
検体をできるだけ容
器に詰めます。野菜
類は洗って皮をむき
細かく切るなど下
処理を行います



放射能検査の結果を公表した当初の『放射能関係のお知らせ』(左)と、2016年から配付している『放射能レポート』(右)

■ 国の基準の推移 (単位: Bq/kg)

2011年の暫定規制値		2012年4月から(現行基準)	
飲料水	200	飲料水	10
牛乳・乳製品	200	牛乳	50
乳児用食品	500	乳児用食品	50
一般食品	500	一般食品	100

パルシステム 2014年10月から(現行基準)	
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10
青果類(きのこ除く)、肉類、卵、魚介類、その他食品	25
海藻類、きのこ類(しいたけ除く)	25
しいたけ	100

■ パルシステムの自主基準の推移 (単位: Bq/kg)

2011年9月から		2012年2月から	
水・飲料	40	水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10
牛乳・乳製品	40	青果類(きのこ除く)、肉類、卵、魚介類、その他食品	50
米、乳幼児用食品	100	海藻類、きのこ類	100
青果(きのこ除く)、肉類、たまご	100		
魚介類、その他食品	500		
海藻類、きのこ類	500		

パルシステムは2011年9月に自主基準を設けて以来、国よりも厳しい内容で基準値を見直してきました。

食品検査とともに被災者の応援(※)も続けます

パルシステムでは2011年以前も食品の放射能検査を行っていましたが、福島原発事故を受けて内部での検査体制を整え、さらに放射能対策の強化に努めてきました。

検査には、「安全な食品を組合員に届けること」、「生産者が安全な農産物を作れるようにデータをフィードバックすること」という役割があります。福島は供給エリアであるだけでなく、多くの生産者がいる地域。放射能低減対策は生産者の努力もあり非常に高い効果を上げてきました。一部で自主基準内の放射性物質が検出されることもあります。厳しい基準で精密な検査を行っている結果です。今後も検査を継続していきます。

さらにパルシステムでは原発事故の被災者応援を組合員とともに取り組んできました。事故を風化させずに、これからも組合員、生産者、地域を守る視点で応援を続けます。同時に「原発に頼らない暮らし」の実現に向けて、再生可能エネルギーのさらなる普及に取り組んでいきます。

※【保養カンパ】2012~17年度で、組合員募金62,886,728円と組織募金を合わせ合計75,737,515円。127企画、延べ3,488名参加。【東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金】2019年度から自主避難者や団体運営に応援を拡大。2019年度は18,203,655円、2020年度は2,660,000円を団体へ配分。

(パルシステム生活協同組合連合会・常務執行役員広報本部長 高橋宏通)

放射能検査状況について

2020年度の検査数(カッコ内は検出件数) / 2021年1月27日現在
※最新の検査状況は下記左側の二次元コードよりご覧いただけます。

総計: 1757 (25) 不検出率: 98.6%

2019年度の検査数 総計3025 (30) 不検出率99.0%

青果	381 (3)	れんこん(3.5~7.8Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	30 (20)	生しいたけ(5.0~11Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ(5.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	34 (0)	2019年度に続き、1月27日現在で放射能の検出はありません。
米・米飯類	30 (1)	2020年産米の検査は27産地29検体の玄米で検査し、栃木こしひかり(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。白米で再検査したところ不検出でした。 ※放射能の多くはぬか部分に蓄積します。検出された栃木こしひかりは白米でのお届けとなります。

牛乳、肉、卵	76 (0)	産地ごとに定期的に検査しています。2019年度に続き、1月27日現在で放射能の検出はありません。
魚介類	87 (0)	2019年度に続き、1月27日現在で放射能の検出はありません。
飲料水・飲料	47 (0)	2019年度に続き、1月27日現在で放射能の検出はありません。
乳幼児用食品	193 (0)	2019年度に続き、1月27日現在で放射能の検出はありません。
その他加工食品	879 (1)	ほしいも(3.0Bq/kg)から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。



- 週次の「放射能関係のお知らせ」はインターネットに掲載しています。
- インターネットから見られない方はこちらにお問い合わせをお願いします。

パルシステム東京・パルシステム神奈川・パルシステム千葉・パルシステム埼玉・
パルシステム茨城 栃木・パルシステム福島・パルシステム静岡・パルシステム新潟とときめき
パルシステム
問合せセンター **0120-868-014** 月~金曜日: 9時~20時
土曜日: 9時~17時
※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。

パルシステム山梨 甲斐センター ■0120-28-5891 高崎センター ■0120-60-5118
西桂センター ■0120-32-1061 渋川センター ■0120-36-3315
一宮センター ■0120-21-9898 東毛センター ■0120-63-3735
※センターによって、携帯電話からはご利用できない場合があります。